

B-101 各種接着芯と毛芯地との比較研究 — 婦人オーバー・コートの場合 —  
文化女大家政 水上ひろ子 ○中原五十鈴

目的 被服を構成するにあたり、形態上欠かすことの出来ないものに<sup>芯</sup>地がある。特にスーツ、コート製作では、前<sup>芯</sup>ははぶくことの出来ない部分である。その理由としては、  
・前<sup>芯</sup>の補強、  
・シルエットの保持、  
・伸び止め、などの役割をもっている。その<sup>芯</sup>地を縫合するにあたっては、能率的に製作する必要がある。今回は、オーバー・コートの前<sup>芯</sup>について従来から用いられている<sup>芯</sup>（毛100%）と接着<sup>芯</sup>（基布：織布、不織布）との物性を機械的に測定を行い、基礎的な資料を得、婦人オーバー・コートを製作することを目的とした。

方法 表布：モッサー（ウール90%、ナイロン10%）、ジャージー（ウール85%、ナイロン15%）の2種、ならびに毛<sup>芯</sup>地、接着<sup>芯</sup>地（基布・織布3、基布・不織布1）の5種類を用いた。ヒュージングプレス機（J R F - 7/6）を用い、接着温度110~120°C、120~130°Cの2種。加圧力0.2 kg/cm<sup>2</sup>。加熱タイム10秒で接着した。剛軟度、収縮率、はく離、荷重伸長回復（1回、10回、50回）等を測定し、さらにそれらをドライクリーニング後との比較検討をした。

結果 接着<sup>芯</sup>地の温度別による接着力は、表布2種共に、あまり差がみられないが、基布によっては差の大きいものもみられた。接着<sup>芯</sup>地の基布の違いにより、ドレープ係数において多少の差がみられた。荷重回復曲線では、基布が織物の接着<sup>芯</sup>地よりも不織布の接着<sup>芯</sup>地の方が伸長率が、とくにたて方向において大きい傾向がみられた。今回の婦人オーバー・コートは、接着<sup>芯</sup>の不織布SF/5を用いて製作し、検討を試みたので報告する。